

今週（6月27日から7月1日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場、無担保コールO/N物は、週初からオファーサイドの資金量が減少した事で、ビッドが上昇しやすい地合いとなった。四半期末となる30日は、一時的に参加者が減少する事からレートが低下したものの、それ以外の日では、大手行からのビッドがみられた事もあり、週を通してみるとレートは上昇していく展開となった。月曜から木曜までの無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.04～▲0.033%での推移となった。7月1日金曜日は、週末要因もあり、更なる上昇が見込まれる。

ターム物は、7月スタートのショートターム物を中心に▲0.04～▲0.03%程度での出合いが見られた。

日銀当座預金残高は、週初560兆円台前半で始まったものの、28日の新型コロナオペの期落ちが大きく影響し、その後は550兆円台前半での推移となった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.40～▲0.10%のレンジでの取引となった。

日銀による輪番の国債買入オペや指値オペの影響により、市場では品薄感が強い中、四半期末要因も加わり、GCはボラティリティの激しい展開となった。

SCは、カレント銘柄近辺や、チーパスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、先週24日に実施された3M物の入札結果が流れたことが意識されてか、全ゾーンでやや軟調な推移となった。7月1日に実施された3M物の入札は無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットではしっかりと推移した。

28日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、平均落札利回り較差、全取り利回り較差ともに+0.026%と、弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、月末週にあたり複数の業態から大型発行が行われたものの、四半期末の大量償還を含むことから、大幅な償還超のマーケットとなった。原材料・エネルギー高、円安等の影響による、発行体の資金需要は引き続き旺盛であり、市場発行残高は月末を除き過去最高水準で推移している。27日には初めて28兆円台に達し、28兆225億円まで積み上がった。6月末の残高は24兆7,475億円と前年同月末比（22兆4,265億円）で2兆3,000億円程度の増加となった。

発行レートは、引き続き0%近傍で推移しているが、残高の多い銘柄やロングタームの案件では買いが入りにくく、目線を切り上げる動きも散見された。

CP等買入オペは、27日に事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は平均落札レート0.009%、按分レート▲0.001%と前回比（平均0.005%・按分▲0.001%）で平均は上昇し、按分は横ばいとなった。

●短期金融市場関連指標

| | 日経平均 (円) | 新発10年物 国債利回り (%) | 為替 (ドル/円中心相場) | 無担保コールO/N (加重平均・%) | 東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%) | 日銀当座預金残高 (億円) |
|----------|-----------|---------------------|------------------|-----------------------|----------------------------|------------------|
| 6/27 (月) | 26,871.27 | 0.230 | 134.60 | △ 0.040 | △ 0.090 | 5,634,300 |
| 6/28 (火) | 27,049.47 | 0.230 | 135.45 | △ 0.039 | △ 0.090 | 5,523,300 |
| 6/29 (水) | 26,804.60 | 0.225 | 136.11 | △ 0.033 | △ 0.326 | 5,520,800 |
| 6/30 (木) | 26,393.04 | 0.225 | 136.63 | △ 0.040 | △ 0.139 | 5,523,100 |
| 7/1 (金) | 25,935.62 | 0.215 | 135.98 | △ 0.026 | △ 0.150 | 5,519,900 |

来週（7月4日から7月8日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

| | 国内主要経済指標 | 国債等入札予定 | | | 海外主要経済指標 |
|---------|--|-----------------------------|------------------------------------|--|--------------------------------------|
| 7/4 (月) | 6月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) | | | | New York祝日(Independence Day) |
| 7/5 (火) | 7月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 5月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) | 10Y 27,000億円 7/6発行 | | | 5月の米製造業新規受注・出荷・在庫 |
| 7/6 (水) | | 交付税借入 13,000億円 7/20借入 | | | 6月のISM 非製造業景況指数 |
| 7/7 (木) | 6月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 5月の景気動向指数速報(内閣府 14:00) | TB6M 24,000億円 7/11 | 30Y 9,000億円 7/8発行 | | 5月の米貿易収支 |
| 7/8 (金) | 5月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 5月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 5月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 6月の景気ウォッチャー調査(内閣府) | TB3M 56,000億円 7/11発行 | エネルギー 対策借入 7,800億円 7/20借入 | | 5月の米卸売売上高 6月の米雇用統計 5月の米消費者信用残高 |

●資金需給予想

| 単位：億円 | 銀行券要因 | 財政等要因 | 資金過不足 | オペ種類 | 期日分 | 新規実行分 | オペ合計 | 実質過不足 | 需給要因 |
|---------|-------|----------|----------|---------------|---------|-------|---------|----------|---|
| 7/4 (月) | 600 | ▲ 38,200 | ▲ 37,600 | ETF買入 国債補完 | 20,000 | 600 | 20,600 | ▲ 17,000 | 法人税・消費税 年金保険料 TB3M発行▲56000償還55300 |
| 7/5 (火) | 1,000 | 8,000 | 9,000 | | | | 0 | 9,000 | |
| 7/6 (水) | 500 | ▲ 26,000 | ▲ 25,500 | 全店共通 | ▲ 4,500 | | ▲ 4,500 | ▲ 30,000 | 恩給 10Y発行▲27000 |
| 7/7 (木) | 0 | 7,000 | 7,000 | | | | 0 | 7,000 | |
| 7/8 (金) | 500 | ▲ 5,000 | ▲ 4,500 | | | | 0 | ▲ 4,500 | 30Y発行▲9000 |
| 週間合計 | 2,600 | ▲ 54,200 | ▲ 51,600 | — | 15,500 | 600 | 16,100 | ▲ 35,500 | |

7/4は日銀予想、7/5以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期間後半となり、調整による調達ニーズが強まると思われ、レート水準は上昇傾向となる事が予想される。レボ市場は、足元GCの動きが大きくなる事も考えられ、▲0.20～▲0.08%近辺での推移が予想される。短国市場は、7日に6M物、8日に3M物の入札実施が予定されている。6M物に関しては、発行予定額が減額となる事から、レート水準への影響が注目される。また、5日に実施が予想される短国買入オペのオファー額は、1,000～5,000億円程度が見込まれる。

CP市場は、期明けで発行案件がどの程度膨らむかが注目される。また、8日にCP等買入オペが4,000億円で実施予定となっており、レート動向が注目される。

主要なイベントは、国内では8日に5月の国際収支、海外では6日に6月の米ISM非製造業景況指数、8日に6月の米雇用統計などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入